

TGS

東大に寄付講座を開設

滝沢特任
教授ら担当 未来を担う人材を育成

東京都下水道サービス（TGS）は今年4月から、東京大学に寄付講座「下水道システムイノベーション講座」を開設し

た。開設に当たって6月24日、TGS本社内の会議室で、渡辺志津男社長（当時）や、講座を担当する滝沢智特任教授（都

市工学専攻教授）らが講座の設置趣旨や研究内容などについて専門紙の取材に応じた。TGSが大学に寄付講座を開設するのは初。設置期間は2025年3月末までの5年間。講座の担当は滝沢特任教授に加え、加藤裕之特任准教授、野村洋平特任助教の3人。

講座での研究目的は、高効率資源循環型・超省エネ型の下水道システムの創出に貢献する技術・制度の調査研究や、大規模災害時においても下水道システムの機能を確保のためのICT技術の活用など。講座の説明に立った滝沢教授は、これら



渡辺社長（当時、左）と講座担当教員

「産官学と市民をつなぎ新しいイノベーションを起こしたい。また下水道に限らず、農業や福祉など分野を超えたつながりを実現したい。また教育機関として世代をつないでいきたい。若い人に下水道に魅力を感じて、下水道界に入ってくれるように注力したい」と抱負を述べた。野村特任助教は「下水道に眠っているシーズ発掘のための研究

の研究を通じ「将来の下水道システムの維持管理に貢献する若い人材を育成する」と述べた。

また加藤特任准教授は、「人と人をつなぎ」をキーワードに挙げ、

拠点となりたい。また教育機関としてグローバルとローカルの視点を併せ持つイノベティブな人材育成の拠点となること」などを挙げこれらを実現する講座としたいと

意気込みを述べた。

渡辺社長は「（寄付講座が）強力な布陣で実施されることに感謝申し上げます。未来を担う若い研究者に下水道事業を学ぶ機会を提供し、日本の

下水道事業のさらなる発展に貢献していきたい」と述べつつ、学生らの活動についても「（TGSとして）全面的にバックアップしていきたい」と意気込んだ。

東京都下水道サービス



東京都下水道サービス（TGS）は今年4月から、東京大学に寄付講座「下水道システムイノベーション講座」を設置した。講座では、バイオマスエネルギーや有価物の効率的な回収・利用システムの開発、超省エネルギー型下水道システム・技術に関する調査研究、情報技術を活用した大規模災害の防災・減災技術の調査研究を行っていくとともに下水道事業の未来を担う人材を育成する。これらの調査・研究を通じて下水道事業者や民間企業などとの連携拠点となることを目指すほか、Society 5.0社会に向けた下水道システムのイノベーション、SDGs達成に寄与する下水道分野の国際展開に貢献していく。6月24日には、渡辺志津男社長（当時）らが、TGS本社内の会議室で専門紙の取材に応じた。寄付講座を担当するのは滝沢智特任教授（都市工学専攻教授）、加藤裕之特任准教授、野村洋平特任助教の3人。寄付講座に関連する各者のコメントは次の通り。

東大に寄付講座開設

未来を担う人材育成

滝沢 特任教授

水、汚泥、エネルギーや空間を有効に活用し、CO₂排出量を削減するとともに、施設管理に関する膨大な情報を情報技術等で活用していくことが求められている。本講座では将来においても持続可能な下水道システムを創出することを目的にしている。また本講座の研究活動等を通じて将来の下水道システムの維持管理に貢献するような若い人材を育成する。



加藤 特任准教授

産官学と市民をつなぎ新しいイノベーションを起こしたい。また下水道に限らず、農業や福祉など分野を越えたつながりを実現したい。また、教育機関として世代をつないでいきたい。若い人に下水道に魅力を感じて、下水道界に入ってくれるように注力したい。



野村 特任助教

下水道に眠っているお宝、シーズ発掘のための研究拠点となりたい。また、教育機関としてグローバルとローカルの視点を併せ持つイノベティブな人材育成の拠点となること、産官学、市民とつながる連携拠点となることを目指したい。



渡辺 社長(当時)

（寄付講座が）強力な布陣で実施されることに感謝申し上げるとともに、大きな期待を寄せている。本講座が5年間を設置期間としてスタートすることで、TGSとしては未来を担う若い研究者に下水道事業を学ぶ機会を提供し、日本の下水道事業のさらなる発展に貢献していきたい。本研究室との共同研究を推し進めながら、実務面でも積極的に連携していきたい。

